

















號 二 三



三

主務局長  主務課長  主務課員 		大臣 次官  高級副官  主計 		受領番 五八一號 廳名 野務局軍務課	
主務課長  主務課員 		次官  高級副官  主計 		受領番 五八一號 廳名 野務局軍務課	
主務課長  主務課員 		次官  高級副官  主計 		受領番 五八一號 廳名 野務局軍務課	

吉井忠美尉、行動ニ関スル件

明治 年 月 日
 明治 年 月 日
 明治 年 月 日
 明治 年 月 日
 明治 年 月 日
 明治 年 月 日

審案筆記者

大伴

副官より第一師團参謀長へ此會案

請願

海峽殖民地附近ニ於ケル軍事視察ノ為トシテ
 一休暇ヲ得ル目下新嘉坡附近ニ在ル大尉
 吉井信照ノ行動ニ関シ在新嘉坡松本歩兵
 大尉ノ報告ニ依リハ曰大尉ハ若坡早ニ若干ノ
 土地ヲ買収シ復漢栽培ノ研究ニ奔走シ軍
 事視察ノ如キハ其名義ニ過キサルモト認メラ
 レ軍界中該報告由果シテ信ナラハ吉井大尉ノ
 行動ニ親役軍人トシテ看過ス可カラサル事ニカ
 同事實調査ノ上報告相成得及軍令也
 此ヲ為参考松本大尉ノ報告板筆添付也

陸密第二九三

五月廿日



松本大尉報告抜萃

今回吉井大尉ハ着新早々十一月二日當地出發 ジョホール州
 コタテンゲンニ至リ其後數日ニメジョール州西岸バトバハンニ至リ
 其目的ハ護謨園ヲ得テ實際ニ護謨ヲ栽培セン爲メナリト
 云フ南洋視察者リ目下全洋ノ流行物タル護謨ニ付キ若干ノ
 智識ヲ有スルノ必要アルハ勿論ナリ然レモ某地ヲ賣収シテ實際
 之カ栽培ニ任スルハ現役將校而モ請願休暇ヲ得テ南洋視察
 フ目的セルモノ爲スヘキトニアラサルヘシ吉井大尉ハ百五ノカ
 護謨園ヲ布望シアルトハ護謨園賣買仲介者タル遠
 藤某ヲ直接小官ノ聞キ取リテ所ナリトス百五ノカニテ護謨
 園ト云フカ成功ヲ期セシハ少カラサル本ヲ要スルノモナラス

僅ニ一々等位ノ休暇ヲ得テ之ヲ爲レ得ルキ所ニアラサルハレ斯
 ノ如ク記述ニ到レハ吾人ハ實ニ不快ナル感ニ打タルモノアリ
 護謨栽培ハ營利事業ナリ現彼將校而モ休暇ヲ得テ此
 ノ如キ事業ニ從事ス吾人ハ引テ陸軍某部ノ腐敗ニ想
 到セサルヲ得ス

0613



閣

補任課
軍事課
聯帶

<p>主務局長 明治十四年四月八日 聯帶</p> <p>主務課長 明治十四年四月八日 聯帶</p> <p>主務課員 明治十四年四月八日 聯帶</p>	<p>決裁</p> <p>主務局長 學</p> <p>主務課長 聯</p> <p>主務課員 聯</p>	<p>大臣 長</p> <p>次官 官</p> <p>高級副官 官</p> <p>主務副官 官</p>	<p>受番件 號名</p> <p>肆第五一四號</p> <p>吉井大尉帰朝ノ異件</p>	<p>廳名 第一師</p>
<p>主務局長 長</p> <p>主務課長 課</p> <p>主務課員 員</p>	<p>參事官</p>	<p>主計</p>	<p>審案 者</p>	<p>聯帶</p>

上奏書

陸軍歩兵大尉吉井信照歸朝件

陸軍歩兵大尉吉井信照

右軍事研究、為 允裁、仰キ英領海峽殖民地地方、

旅行中、屬令般家事上、都合、依、歸朝願出候、件

許可致候

四月十三日

右謹上奏ス

大臣ヲ御指令書

願之通

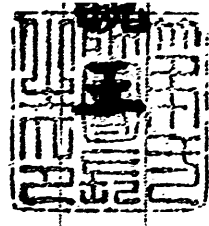
四月十三日

階

屏

號 44 四月八日

三月十八日



英領海

ノモノ

可現成度

信照

9190 0616

洋果来下乃意兒

軍書課

歸朝御願

信照儀

昨四十二年九月下旬ヨリ向テ一年間請願休
暇御許可相成軍事研究為自下英領海
峽殖民地シンガポールニ滞在致居候處一身
上都合依リ此際歸朝仕度候付御許
可被成下度此段奉願候也

明治四十四年三月十一日

歩兵第五十聯隊附陸軍生業大尉吉井信照

陸軍大臣子爵寺内正毅殿



(参照) 四十二年九月十四日許可

請願休暇御願

信照儀

今般軍事研究ノ爲メ英領海峽殖民地地方一旅行任リ度候ニ付来ル九月下旬ヨリ向フ一ケ年間請願休暇御許可被成下度別紙研究項目旅行計画ノ概要等相添此段奉願候也

明治四十三年八月廿四日

歩兵第二旅團副官陸軍歩兵大尉吉井信照

陸軍大臣子爵寺内正毅殿

三

四



三
関
五
件
課

0620

皇
十
日
會
報
の
趣
旨
に
依
り
及
回
付
候
也

軍
機
簿

結
了
り
致
さ
る

慶
年
五
月
三
日
全
十
日
會
報
ノ
趣
旨
ニ
依
リ
及
回
付
候
也
大
臣
官
房

高級副官第一師團參謀長、通牒呈示

陸軍

左記、有對英領海峽殖民地、於各行動、就
詳細通牒、大、肯照會致候處、今同別紙、
如、田答有之候、糸為参考及通牒候也

左記

陸軍省

陸密第

五六

號

三月九日

步兵第五十七聯隊附

陸軍步兵大尉吉井信照





旅行ノ目的ニ關スル件回答

明治四十四年二月十日

陸軍省副官竹島晋次郎殿
陸軍歩兵大尉吉井信昭

陸軍省副官竹島晋次郎殿

明治四十四年一月十八日附陸密第一三號ヲ以テ御照
會相成候件別紙ノ通リ及回答候也

陸軍省副官竹島晋次郎殿



別紙

今回小官カ實施致候英領海峡殖民地々方旅行
 ノ目的ハ全然軍事視察モ語学ノ研究ニ有之候
 處恰モ出發前當地附近ニ於ケル栽培事業ハ漸ク
 世人ノ間ニ喧シク邦人ヲシテ當地方ニ立脚地ヲ得セシム
 ルニ極メテ有利ノ事業素ナルヘキヲ思ヒ居ル候處愚兄モ
 同事業ニ就キ大ニ其趣味ヲ有シ成シ得レハ之カ研
 究ヲ委託セラレタルヲ以テ小官モ本業ノ餘暇之カ研
 究ヲ志スハ國益上ヨリ申スモ無益ニアラサルヲ信シ承託
 上出發致候然ルニ小官ト同船中ニ有力ノ栽培事業
 家三四名有之談偶々談事業ニ物ルヤ彼等ハ異

口同者ニ其有利ニシテ確實ナルヲ知シ果テ愚兄ニ於テ
 其意アルナレバ今ヤ研究ノ時期ニイラスシテ實行ノ時
 代ナリ一日ヲ遷クルレハ將來夫大ケテ不利ハ申スニ及ム便
 利ナル土地ヲ取得スルコト極メテ困難ニ至ルヘシトコトニ小宮
 ハ一刻モ早ク之ヲ研究ノ必要ヲ感シ又コトハ之等ノ状況ヲ知
 リ地方士人ノ風習ヲ觀察スルモ亦主目的ノ一端ナルヲ思ヒ
 着新後日オラスシテ彼等ト同行植林地ヲ實現致候處
 全ク彼等ノ言ノ如クニ有テ速ニ土地ヲ得置クコトハ愚兄
 一為テ極メテ切要ナルヲ信シ南後一時之カ為メニ努力致
 シタルハ事實ニ有テ候然レモ此間都市ニ密産スルニ
 比シ地方士人ノ人情風俗其他山野ノ状態等ヲ知得シタルノ

利益ハ決シテ夥カラスト信シ候此時日間駐在武官タル松
 本少佐ハ一二回小官カ地方ニ出入スルニ就キ注意ヲ與ヘ
 ラレタル如キモ其要ヲ得ス依テ小官ハ小官ノ目下ノ行動
 カ現役軍人トシテ不都合ト認メラレ候ニ於テハ断然止ムヘ
 シト申シタルモ左ニアラス當時未新中ノ小山豫備歩兵
 大佐ノ行動ニ關連シ政廳ノ誤解ヲ招クヲ恐レルハナリ
 殊ニ蘭領ニ於テハ或ハ小官ノ行動ヲ中止セシムルコトアルヘシトノ
 コトニ有之候間小官モ其意ヲ了知シ両氏ノ行動ニ
 障礙ヲ生スルカ如キコトハ為サルヲ契ヒ候其後小山
 豫備歩兵大佐ト面談シ私人トシテ小官カ現役ヲ止メ
 談事ヲ終ルニ從事スルハ日本國民トシテ將來南洋ニ發

展スルモノカ先ノ五脚地ヲ得ル為メ極メテ有利ナル事業
 ナルコトノ意圖ヲ漏シタルコト有之候此ノ如クシテ小官
 ハ愚兄ノ為メ遂ニ當布ヲ去ル約ニ理ジヨホール河岸ニ
 五百エーカーヲ撰定シ昨年十月下旬小官ノ名義(名義
 書替ハ許可ノ後ヲ如何様ニモ為シ得んモノシテ現任者ノ
 方統テノ交渉ニ便利ナルヲ思ヒタレハナリ而シテジヨホール
 國政廳ハ毫モ身元等ヲ調査スルコトナク小官力軍
 人ナルコトモ余ヲ知ラヌ)ヲ以テ土地拂下ノ願書ヲ提出
 致候後チ教曰ニシテ愚兄ヨリ事業中止ノ電報ニ
 接シタルモ既に提出後ナリシト又ラシハ邦人カ談地ヲ台
 有シ置クコトハ將來決シテ無益ニアラサルヲ思ヒ願書

取戻し手續ハ致サス候

右ノ如ク一時ノ成行上ヨリ當幼小官カ豫想シタル
 附隨目的ハ及テ主目的ノ如キ外觀ヲ呈シタルハ誠
 ニ止リヲ得サルコトニシテ之ニ就キテハ小官元大ニ悔悟致
 居候而シテ小官ハ土地拂下許可ヲ得ルヲ以テ附隨
 研究ノ終末トシ愚見カ事甚多ク實施致スト否ト
 係ラス全然之ヲ他人ニ依託シ小官ハ専心本目的
 ニ奮勵可仕候

以上

06290

0628

三年

補任課
軍事課

聯帶

閱

ハナル
本案ハ決行見合

局長
明治二年二月十四日
三月十四日
局長

大臣
件名
務員
領

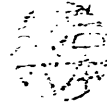
次官

密受第五八師
吉井步兵大尉外國旅行差止帰朝セシル件

廳名

第一師團

次官



高級副官



主計

主務副官



事官

務局長



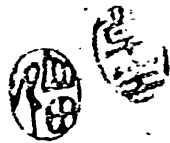
主務課長



主務課員



聯帶課長



審案筆記者



06290

0628

閱

三年
補任課
軍事課
聯帶

大臣官房	主務局長	決裁	大臣	件	領
明治 年 二月 十四日	明治 年 二月 十四日	明治 年 二月 十四日	明治 年 二月 十四日	名	號
長	主務局長	參事官	次官	密受第五八師	
長	主務課長	高級副官	主務副官	第一師團	
長	主務課員	主計		韋弁步兵大尉外國旅行差止帰朝セシム件	
者	案	審			

上奏帖

陸軍歩兵大尉吉井信照外國旅行之差費歸朝セシ件

別紙、通奉仰 允裁候

歩兵第五十七聯隊附

陸軍歩兵大尉 吉井信照

上奏	二月十七日
裁可	月 日
内閣	月 日

右軍事研究、為明治四十三年九月下旬ヨリ向一箇年間英領海峽殖民地地方へ旅行ノ儀罷シ
 允評ヲ仰キ置候處爾後豫期ノ研究目的ヲ達成シ難キ事情相生ニ候付歸朝為致候
 様更ニ 允許相成度

允裁濟ノ上大臣ヨリ第一師團長へ御指令按

二月一日附密發芽六弼吉井歩兵大尉請願休暇取

消ノ件申請ノ通更ニ允裁ヲ經タリ

追テ本人ニ請願休暇差止メ帰朝ヲ命スル旨速ニ傳

達スヘシ

允裁濟ノ上高級副官ヨリ第一師團參謀長へ照會按

二月一日附密發芽六弼吉井歩兵大尉請願休暇取

消ノ件貴師團長ヨリ上申相成候處本人旅行先ニ

於テ行勤全ク休暇願出ノ趣旨ニ恃リ居候義ト認

メラレ今般更ニ允裁ヲ經テ休暇差止メ帰朝相

共
見

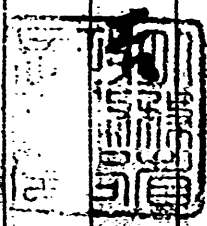
命せらし候事、相成候就テハ、侍人ノ請願休暇願出
 ノ當初所屬部隊長、於ケル調査進達手續等以
 降更ニ取調ノ必要有之候、付至急調査報告相
 成候様致度、此段命ニ依リ及照會候也



機密送附 九 號

明治四十四年二月九日

外務省外務局長倉知漱



陸軍省軍務局長岡市子如殿

若井歩兵大尉一昇さん取調中
畠田中旅團長より江波頼成さん若井
歩兵大尉尉一昇さん取調中
披岩が領事代理より別紙官白紙四枚
送付された旨右様へ及江波頼成さん取調中
取成交し取進め申す

別紙添付

寫

高家分二子

明(皇)十四年丁酉七月廿一日

在(皇)家(御)所

領事(官)副領事(官)等(御)使(者)

以(務)者(以)格(官)長(官)知(務)者(御)

去年(皇)十四年(丁酉)七月(廿一日)附(極)密(信)一(封)

附(極)密(信)一(封)去年(皇)十四年(丁酉)七月(廿一日)附(極)密(信)一(封)

去年(皇)十四年(丁酉)七月(廿一日)附(極)密(信)一(封)

去年(皇)十四年(丁酉)七月(廿一日)附(極)密(信)一(封)

去年(皇)十四年(丁酉)七月(廿一日)附(極)密(信)一(封)

去年(皇)十四年(丁酉)七月(廿一日)附(極)密(信)一(封)

附(極)密(信)一(封)

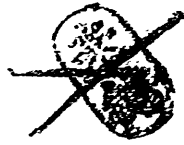
並ニ河川ノ研究ノ為メ此年十月舊地ノ河航
 政ニ出テ其ノ研究ノ為メ此年十月舊地ノ河航
 地ノ入ル方ニ付依頼セラレタルニ依リ先ツ舊地ノ
 著シク其況ヲ見タムニ耕地ノ入手ハ一日モ後ルノ
 不利益ノ状態ニアルヲ思ヘ傍ラ一ノ果ルノ之怪
 言語等ノ研究ヲ兼テ真目的タル軍事研究
 究ラ後ニ直ニ耕地ノ入手ニ事業ニ着目シタルハ
 事業ニ直ニシテ予テラ該事業ノ遂成ヲ期セシカ為メ
 等係者ト友好ヲ結ビ世間ノ考道ノ交際ヲ廣
 ケ島川上ニ付テモ多少ノ意向アラサシ評ヲ招キ
 カルキ行動ニ着目シ該事業ヲ自認セリ高曰夫
 府ハ已ニ耕地ノ探査ヲ了シ(自個ノ名義ニテ)目下
 ホール河沼岸ニ由ルエーカース出動セリト云フ目下

其、汗中ヲ待居ヌル所テハ新地入子ニ義ハ
 並ニ一段落ヲ告ケタルヲ以テ是ヨリハ専心目的
 ノ軍事研究ニ從事シテ其ノ後方申出テ而シテ
 其ノ別目的トモ稱スルヲ新地收得ヲ先ニシテ
 目的タル軍事研究ヲ後ニシタル事ノ痛ク
 悔心ノ所ニ具ス

右口向ニ各々申進メ教示

下
 大
 一

2890



閱

三年

主務局長 明治四年一月十七日		大臣 決裁		受番 領	
主務課長 明治四年一月十七日		次官		密受 吉井大尉ノ行動ニ関スル件	
主務課員		高級副官		廳名	
審案筆記者		主計		事務局長事務	

密受
吉井大尉ノ行動ニ関スル件

事務局長事務

廳名



在
見

次官より外務次官へ照会案

軍事視察ノ目的ヲ以テ英領海峡殖民地
地方へ旅行シ目下新嘉坡附近ニ在ルハキ
突尉吉井信照ニ口地ニ注テ軍事ヲシテ
別封照會狀傳達セシメ陸海軍ノ共同研究
相成陸海也

一月十八日

(別紙)

高級副官より吉井大尉へ照會案

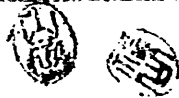
目下英領海峡殖民地
地方旅行ノ目的ハ護謨栽培研究ニ在リテ

軍事視察ノ事ニ其ノ旅行ノ名義タルニ過キル
 カ如キ形跡有之果シテ然ラバ現役軍人トシテ
 甚ク不徳膏ノ重罪ト認メラレタリハ詳細
 事實通知片紙亦以テ急回各官及後生

陸軍省 陸密第一 三 號

一月十八日

陸軍





第一師團
司令部
密發第

一
號

二月九日

吉井歩兵大尉、行動、関スル件報告

明治四十四年二月七日

第一師團長 齋藤 仁親王

陸軍大臣子爵寺内正毅殿

東京市四谷區麩屋町五十三番地

歩兵第五十七聯隊附陸軍歩兵大尉 吉井 信照

右者、内情、関シ陸密第二九三號陸軍省副官照會、

趣調査候處左記、通シ有シ候間此段及報告

候也

左記

吉井大尉、實兄吉井信實ト、関係



軍事参謀 野八

一、大尉、實兄子爵後備歩兵中尉吉井侯實ハ
 去ル四十一年七月頃ヨリ株式及炭山業等ニ
 手ヲ出シ、常ニ投機的ノ事業ニ熱心スル方
 テ之レカ爲ソ、從來ヨリ勤カラサル失敗ヲ来レ、昨
 今家政稍紊乱ノ状態ナルヲ以テ之ヲ回復
 セン爲ソ、八方苦心中ニ護謨栽培事業ノ有
 利ナルヲ間キ、本業ノ盛地ナル新嘉坡地方
 ラ實地視察センノ企畫アリシモ、家事上ノ都合
 ニテ、永ク他出不可能ナル事情アルヲ折
 柄之レラ、實弟吉井大尉ニ謀レリ
 二、吉井兄弟ハ相互ニ親密ニ相往來シ、家政

上、関シテハ双方相談等ヲナシ處理スルヲ常
 トスル趣ニテ實弟ハ前記護謨栽培事業
 関シテモ大之ヲ賛成シ居ル由ナルヲ以テ今回ハ
 英領海峽殖民地地方へ旅行ヲ企テタルハ
 軍事視察ハ其名義ニ過キスシテ内實護
 謨栽培研究ヲ重ク旅行ノ目的トセシニハ
 アラサルカノ風評アリ而シテ同人カ旅行先ヲ實
 兄ハ二回末信アリタル趣ナレモ護謨栽培
 関スル状況ニ付テ末々詳細ナル音候ナキ由ナリ
 而シテ實兄、於テハ大尉ヲ愈々有利ナル見
 込アリトシ末信ニ接セハ資本ヲ送付シ事業

査
 軍

こ着年スル計畫ナリ居リト(以上東京憲兵隊長内報、要旨)

吉井大尉出發前及出發當時ノ状況

三、吉井大尉、同期生某、談レハ大尉ハ出發前ニ護護栽培事業ノ經驗アル者ヲ招致シ該事業ニ関スル研究ヲナシタリ又實兄信實ヲ同事業ノ調査ヲ依託セラレタリト

同人妻ニ該事業ヲ爲スニ於テハ相當ノ資本ヲ要スレキモ旅費等ノ外過人ノ金員ヲ所持セス又戻金方モ要求シ来

0644

ラサルヲ以テ設事業ニ従事ニタリトハ信
シ居ラス

空

眞